

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	静岡県沼津市千本常磐町 5-1		
自己評価作成日	令和 5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2271101145-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2271101145-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 11月 21日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご入居者様が自分らしく、安心して生活できるような支援を心がけています。生活リハビリを念頭に置き、出来ること出来ない事を見きわめ、支援しています。「笑顔で介護」をホームの目標とし、職員一同頑張っております。季節の行事だけではなく、お誕生日会やイベントへの参加等、ご入居者様に楽しんで頂いたり、散歩や日光浴、ドライブなどして頂いたり、笑顔が増えるよう工夫を凝らし計画し、実施しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は複数の事業所を運営しており、管理者会議・職員研修を毎月行い、管理者の情報共有・意見交換と職員のスキルアップの環境を整え、法人理念に基づく事業所運営の支援に努めている。コロナ禍制限緩和を受け、近隣の桜並木の花見や日課の散歩での地域住民との挨拶、近隣小学生の訪問、地域行事への参加など、地域住民との交流を再開している。事業所便り「グループくすのき」にて利用者の近況を報告し、コロナ禍でも家族との信頼関係の構築に取り組んできた。管理者は、個人面談や全体会議等を活用して職員からの意見抽出に努めている。職員は、全員で利用者のカンファレンスを行い、生活リハビリを目的に、食事準備・清掃等を利用者と共に行い、利用者の能力に合わせた支援を心掛けている。月2回の訪問診療では事前に「往診表」を送り、看護師・薬剤師と共に迅速に対応できる仕組みを整えている。定期的な清掃・換気・消毒により、清潔で安全な環境作りにも努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは家庭的な雰囲気の中で、笑顔を絶やさず、共に笑い皆で幸せを共有できる空間を創っていきます」の理念のもと支援しています。フロアに理念を掲げ、常に意識するよう心がけています。	法人本部は複数の事業所を経営しており、地区別に月例の管理者会議を行い、法人理念と情報の共有を図っている。管理者は、毎朝の申し送りや全体会議にて職員と情報を共有し、理念に基づく支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時にご挨拶させていただき、お話しています。町内の行事、地域防災訓練、敬老行事には入居者様と参加させていただいています。	制限緩和を受けて、近隣コースの日課の散歩にて地域住民と挨拶を交わすなど、コロナ禍前の交流を取り戻している。千本地域包括支援センター開催行事への参加や近隣小学校5年生の合唱・合奏訪問の実施に向け、準備している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、認知症カフェ等、地域の方々にホームの事や認知症への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度入居者とその家族、行政、民生委員の方々に近況報告を行い情報を共有しています。またホームの生活も見えただき、出席された方より、ご意見ご感想をいただき、サービスの向上に努めている。	行政・地域包括支援センター職員、民生委員・自治会長、家族代表が参加して2か月に1回開催している。行事・研修やヒヤリハットなど、事業所の近況を報告し、委員それぞれの立場からの意見抽出に努め、事業所運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	沼津市グループホーム連絡会に参加し、活動報告を行っている。電子メールでの情報交換や意見交換になっているが、協力関係が築けるよう努めている。	沼津市GH連絡会に参加し、行政や他法人事業所との意見交換を図っている。運営幹事は持ち回りで担当し、各事業所からの要望や相談事について、行政からの情報をフィードバックし共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束ゼロ宣言を周知している。研修を通して、身体拘束をしない介護方法を話し合い取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催している。年2回、職員研修を実施し、身体拘束の適正化に取り組んでいる。不参加者には個別研修の報告提出を促し、全職員が適切な対応による支援に努めている。委員会や社内研修では、虐待防止についても研修を行っている。	「高齢者虐待防止に関する指針」の策定や研修の実施について、24年度から単独で義務付けられることから、身体拘束に関する委員会や研修の実施は、虐待と区別して行う体制整備を期待します。

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行っている。個々の職員が入居者に関心を持って接し、細かな変化に気づくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加するようになっているが、現在対象者がおらず、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書に沿って丁寧にご説明し、ご理解、ご納得をいただいている。入居後もご不明な点やお問い合わせに対し、ご説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時にお聞きしています。毎月の近況報告でもご意見・ご感想がある方はお声をかけてくださるようになっています。玄関にご意見箱を設置し、本社に意見が届くシステムになっています。	家族の面会訪問は、緩和措置に伴い、今年度5月から以前の状態に戻し、家族とのコミュニケーションを図っている。毎月事業所便り「グループくすのき」を郵送し、利用者の写真と職員のコメントにより近況報告し、信頼関係の構築に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見が出た時はすぐに対応している。また日ごろから話しやすい関係を築くよう努めている。毎月の全体会議やユニット会議の時に話し合っている。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、職員からの意見の聴き取りに注力している。年2回個人面談や毎月の社内研修にて職員のスキルアップに努めている。職員は、日々の申し送り、全体会議やユニット会議にて情報共有と意見交換を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を2日取れるように勤務表を作成している。有休が取れやすいよう配慮し、疲労を溜めない工夫をしている。職員同士協力し合い、時間で上がれるようになっています。福利厚生にも力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年間で実施している。また、外部研修を受講した場合は、全体会議で他職員に伝達している。資格取得の為の助成金制度がある。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市GH連絡協議会に参加し、情報交換や交流を行っている。社内でもリモートで交流を行う事もある。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学の時や、初回面接時にお困りごとや不安なこと、ご要望を伺い、話し合いながら信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談をいただいた時から、不安なことやお困りのことなどに耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居してから、管理者・職員でカンファレンスを開催し、どのような支援が必要なのを見極め、出来るだけ本人やご家族様の意向に沿うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を生活リハビリととらえ、無理なくできることはしていただき、できないことは支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をお便りでお伝えしたり、面会時にも話をさせていただいています。ご家族様とも情報共有をしながら、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が遠慮なく来訪できるように配慮している。また地域行事等で、ご友人に会うこともあり、その後面会に来られるようお声掛けしている。	緩和措置により、友人・知人の訪問や地域行事への参加を促している。民生委員の紹介で近隣小学5年生の合奏と合唱訪問を実施する。地域包括支援センター主催の「認知症カフェ」も再開したため、参加の準備を進めている。	

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歌などの集団レクリエーションを行い、ご利用者同士の関係作りに努めている。ご利用者同士の思いや考え方の違いもあり、難しい面もあるが、座席を配慮し笑顔で過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。転居先に必要な情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を構築しながら話しやすい雰囲気を作り、お話を伺うようにしている。明確な意向を伺えない方は、表情や行動から意をくみ、ご家族様の意向、希望と合わせ、話し合いながら、ご利用者本位になるよう検討している。	入居時の利用者の思いや意向、家族の要望等について、在宅時の担当ケアマネジャーと連携してアセスメント表にまとめ、得られた情報は全職員が共有している。日々の申し送りや職員会議で意見交換しながら、意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人様、ご家族様に伺い生活歴等を伺い、アセスメント表にまとめ、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や職員間の気づき等を支援日誌に記録し、申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回カンファレンスを開催し、個々の現状と課題を話し合っている。モニタリング、アセスメントを半年に一回行い、現状に即したプランの作成に努めている。	月例ユニット会議において、利用者全員のカンファレンスを実施している。6か月ごとのモニタリングの際には、ケアマネジャーは職員とともに、居室担当者が発表した該当者の変化や課題について話し合い、介護計画の作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってケアを実践した結果や、気づきをその都度記録に残し、申し送り等にて情報を共有している。この記録を介護計画に活かしている。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟に対応するため、皆で話し合いニーズに沿えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が月に1回来訪し、皆様とお話している。市、町内、千本プラザに行事や催事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回ホーム主治医の訪問診療を受けている。他医院がかかりつけ医の場合は基本ご家族様に付き添いをお願いしている。ご家族様の都合が悪い場合は、職員が対応することもある。往診、受診時には様子を伝え、相談、指示を仰いでいる。	月2回協力医の訪問診療と週1回看護師訪問により、利用者の健康を管理している。利用者の健康状態を事前シート「往診表」に整理して、訪問日前日に連絡しているため、医師は、同伴する薬剤師とともに、事前情報をもとに迅速な対応ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回主治医クリニック看護師が訪問し、健康管理を行っている。また、月二回の往診時にも看護師が同行するので、主治医との橋渡しや相談アドバイスも受けやすい環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院の主治医と担当看護師、ケースワーカーと情報交換し、スムーズに治療が進み早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、重度化における指針について説明している。その時が来たら主治医を交えて、再度ホームの対応を説明し書面にてご家族様の意向を確認している。	重度化や終末期の対応は、入居時に法人作成の指針について説明を行い、利用者・家族の同意を得ている。状態の変化があった場合は、主治医・管理者は再度家族に説明し、家族の意向に沿って対応している。職員は年1回定期的に研修を行い、緊急時や看取り時の対応を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変や事故発生に備えて、応急処置や初期対応の訓練を専門家の方をお願いしている。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に火災、地震、津波の訓練を年二回行っている。火災、地震はご近所、町内と協力体制が出来ている。津波はライブジャケットを用意し、着用訓練を行っている。	防災訓練は、年2回テーマを決めて実施している。火災、地震対策訓練は近隣住民を巻き込んで実施し、地域住民との協力体制もできている。 ユニットごとに防災委員を配置し、訓練計画策定や備蓄品管理を行っている。	訓練実施により得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要なことから、課題を継続した訓練の実践を期待します。 令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、夜間想定・長期停電対策の検討を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様個々に合った言葉や、声のトーンに気をつけている。排泄、入浴、更衣の時はプライバシーに配慮した支援を行うよう努めている。	個人情報の取り扱いについて、入居時に利用者・家族の同意を得ている。人格を損なう言葉掛け等の課題については、管理者は都度、声を掛けて注意を促すとともに、定期的な職員研修や職員同士で注意喚起できる環境整備を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が思いを言いやすい雰囲気づくりと関係に努めている。自己決定しやすいように選択肢を絞り決定しやすいよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様から要望があった時は、状態を考慮し希望に沿えるよう努めている。散歩やレクリエーション等の声掛けをするが、ご本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面、整容の声掛けや介助を行っています。定期的に訪問理美容を利用している。季節に合った衣類の選択の助言をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、野菜の皮むきなどのお手伝いをお願いしている。ご入居者様に広告を見ながらメニューを決めたり、買い物にお連れしたときに相談したりすることもある。	職員は利用者の状態に合わせて、買い物・準備・食器洗い等を共に行い、手作りの食事を楽しんでいる。新聞広告を見てメニューを決めたり、誕生日会や敬老会・クリスマスなど、季節ごとの行事の折には、利用者の好みの献立を作り、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様に合った食事形態、量を提供しています。食事量、水分量はその都度記録している。体調に合わせて食事形態を変更したり、お好きなものに変えて提供している。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼食後はお茶でうがいをしている。残渣物が多い方は、歯間ブラシやブラッシングを介助している。夕食後は義歯洗浄もしている。ご自分で行うのが困難な方は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な方でも、職員二人介助にてトイレに座っていただいている。ご入居者様によっては、腹圧をかけ排泄を促している。パッドやパンツ汚染のないよう、必要時に声掛けを行いトイレ誘導をしています。	タブレットを活用して排泄状況を記録し、利用者個々の体調や状況に合わせた声掛けを行い、トイレ利用を支援している。立位ができない場合でも、二人介助等安全に配慮しながら、トイレ利用の支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、散歩や歩行訓練を行い運動の機会の提供をしています。腹部マッサージを行い排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は無理強いせず、ご本人の希望やタイミングに合わせてお声掛けしています。入浴が困難な方は、全身清拭、シャワー浴を行っています。入浴剤を使用し、歌を歌ったり、お話をしながらゆっくり入浴できるよう努めている。	入浴は、週2回を原則として、午前・午後を問わず利用者の体調や希望に合わせて支援している。入浴剤を使い、気持ちよく、楽しく入浴できるように工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や個々のペースに合わせて声掛けし対応している。寝具も清潔を保ち、湿度、室温、明るさに配慮し、気持ちよく休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報にて、目的、用法、副作用を確認している。また薬の変更時には、様子観察を行い、申し送り等で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散歩等にお誘いし、気分転換を図っています。家事や身の回りの事で出来ることはお願ひし、役割が持てるよう努力している。		



静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な希望に沿うことは難しいが、日程を調整し場合によってはご家族様の協力を得て、外出する機会を作っている。地域の催事、交流会に参加している。	10～15分程度の周辺コースの散歩やベンチでの外気・日光浴、畑でのスイカ作りなど、暮らしの中に取り入れた外出支援を実践している。職員は、地域行事の参加など、利用者個々の希望や体調・興味に合わせて工夫した対応を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はホームで管理している。買い物へ行かれた時に、ほしい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話できる方には、申し出により対応している。また取次も行っている。届いた手紙や荷物はご本人へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝ご入居者様と一緒に掃除を行い、清潔に努めている。季節ごとに飾り付けやお花を飾る等して、季節を感じていただけるよう配慮している。	季節に合わせた飾り付けや活け花を飾り、季節感を大切に共有空間作りを心掛けている。常時換気・定期的な消毒(2回)や清掃により、感染症対策を心掛けている。毎朝、生活リハビリとして利用者と共に清掃をして、清潔な環境を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様の座席の配慮している。フロアを移動して交流もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置はご入居者様とご家族様の希望を優先していますが、状態によりアドバイスさせていただくこともある。馴染みの物をお持ちいただき、居心地の良いお部屋になるように配慮している。	エアコン・クローゼットを備えた居室には、使い慣れた品を置いて、居心地の良い部屋作りを心掛けている。居室担当者は、家族と協力して衣替え等を行い、季節を感じる暮らし方を支援している。定期的な換気と清掃により、清潔な環境作りに注力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーでトイレ・風呂場は分かりやすいように表示しています。通路には物を極力置かず、導線を広く確保できるように配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101145		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホームくすのき		
所在地	静岡県沼津市千本常磐町 5-1		
自己評価作成日	令和 5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2271101145-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101145-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 11月 21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中でご入居者様が自分らしく、安心して生活できるような支援を心がけています。生活リハビリを念頭に置き、出来ること出来ない事を見きわめ、支援しています。「笑顔で介護」をホームの目標とし、職員一同頑張っております。季節の行事だけではなく、お誕生日会やイベントへの参加等、ご入居者様に楽しんで頂いたり、散歩や日光浴、ドライブなどして頂いたり、笑顔が増えるよう工夫を凝らし計画し、実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは家庭的な雰囲気の中で、笑顔を絶やさず、共に笑い皆で幸せを共有できる空間を創っていきます」の理念のもと支援しています。フロアに理念を掲げ、常に意識するよう心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物時にご挨拶させていただき、お話しています。町内の行事、地域防災訓練、敬老行事には入居者様と参加させていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、認知症カフェ等、地域の方々にホームの事や認知症への理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度入居者とその家族、行政、民生委員の方々に近況報告を行い情報を共有しています。またホームの生活も見ていただき、出席された方より、ご意見ご感想をいただき、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	沼津市グループホーム連絡会に参加し、活動報告を行っている。電子メールでの情報交換や意見交換になっているが、協力関係が築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束ゼロ宣言を周知している。研修を通して、身体拘束をしない介護方法を話し合い取り組んでいます。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行っている。個々の職員が入居者に関心を持って接し、細かな変化に気づくように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修に参加するようにしているが、現在対象者がおらず、支援には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書、契約書に沿って丁寧にご説明し、ご理解、ご納得をいただいている。入居後もご不明な点やお問い合わせに対し、ご説明をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時にお聞きしています。毎月の近況報告でもご意見・ご感想がある方はお声をかけてくださるようになっています。玄関にご意見箱を設置し、本社に意見が届くシステムになっています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より意見が出た時はすぐに対応している。また日ごろから話しやすい関係を築くよう努めている。毎月の全体会議やユニット会議の時に話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を2日取れるように勤務表を作成している。有休が取れやすいよう配慮し、疲労を溜めない工夫をしている。職員同士協力し合い、時間で上がれるようになっています。福利厚生にも力を入れています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を年間で実施している。また、外部研修を受講した場合は、全体会議で他職員に伝達している。資格取得の為の助成金制度がある。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市GH連絡協議会に参加し、情報交換や交流を行っている。社内でもリモートで交流を行う事もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム見学の時や、初回面接時にお困りごとや不安なこと、ご要望を伺い、話し合いながら信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談をいただいた時から、不安なことやお困りのことなどに耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居してから、管理者・職員でカンファレンスを開催し、どのような支援が必要なのを見極め、出来るだけ本人やご家族様の意向に沿うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を生活リハビリととらえ、無理なくできることはしていただき、できないことは支援させていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子をお便りでお伝えしたり、面会時にも話をさせていただいています。ご家族様とも情報共有をしながら、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が遠慮なく来訪できるように配慮している。また地域行事等で、ご友人に会うこともあり、その後面会に来られるようお声掛けしている。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や歌などの集団レクリエーションを行い、ご利用者同士の関係作りに努めている。ご利用者同士の思いや考え方の違いもあり、難しい面もあるが、座席を配慮し笑顔で過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。転居先に必要な情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を構築しながら話しやすい雰囲気を作り、お話を伺うようにしている。明確な意向を伺えない方は、表情や行動から意をくみ、ご家族様の意向、希望と合わせ、話し合いながら、ご利用者本位になるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人様、ご家族様に伺い生活歴等を伺い、アセスメント表にまとめ、情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や職員間の気づき等を支援日誌に記録し、申し送り等で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回カンファレンスを開催し、個々の現状と課題を話し合っている。モニタリング、アセスメントを半年に一回行い、現状に即したプランの作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってケアを実践した結果や、気づきをその都度記録に残し、申し送り等にて情報を共有している。この記録を介護計画に活かしている。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々柔軟に対応するため、皆で話し合いニーズに沿えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員が月に1回来訪し、皆様とお話している。市、町内、千本プラザに行事や催事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回ホーム主治医の往診を受けている。他医院がかかりつけ医の場合は基本ご家族様に付き添いをお願いしている。ご家族様の都合が悪い場合は、職員が対応することもある。往診、受診時には様子を伝え、相談、指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回主治医クリニック看護師が訪問し、健康管理を行っている。また、月二回の往診時にも看護師が同行するので、主治医との橋渡しや相談アドバイスも受けやすい環境となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院の主治医と担当看護師、ケースワーカーと情報交換し、スムーズに治療が進み早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期、重度化における指針について説明している。その時が来たら主治医を交えて、再度ホームの対応を説明し書面にてご家族様の意向を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変や事故発生に備えて、応急処置や初期対応の訓練を専門家の方をお願いしている。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員を中心に火災、地震、津波の訓練を年二回行っている。火災、地震はご近所、町内と協力体制が出来ている。津波はライフジャケットを用意し、着用訓練を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様個々に合った言葉や、声のトーンに気をつけている。排泄、入浴、更衣の時はプライバシーに配慮した支援を行うよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が思いを言いやすい雰囲気づくりと関係に努めている。自己決定しやすいように選択肢を絞り決定しやすいよう配慮しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様から要望があった時は、状態を考慮し希望に沿えるよう努めている。散歩やレクリエーション等の声掛けをするが、ご本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面、整容の声掛けや介助を行っています。定期的に訪問理美容を利用している。季節に合った衣類の選択の助言をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、野菜の皮むきなどのお手伝いをお願いしている。ご入居者様に広告を見ながらメニューを決めたり、買い物にお連れしたときに相談したりすることもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様に合った食事形態、量を提供しています。食事量、水分量はその都度記録している。体調に合わせて食事形態を変更したり、好きなものに変えて提供している。		



静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼食後はお茶でうがいをしている。残渣物が多い方は、歯間ブラシやブラッシングを介助している。夕食後は義歯洗浄もしている。ご自分で行うのが困難な方は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位が困難な方でも、職員二人介助にてトイレに座っていただいている。ご入居者様によっては、腹圧をかけ排泄を促している。パッドやパンツ汚染のないよう、必要時に声掛けを行いトイレ誘導をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、散歩や歩行訓練を行い運動の機会の提供をしています。腹部マッサージを行い排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は無理強いせず、ご本人の希望やタイミングに合わせてお声掛けしています。入浴が困難な方は、全身清拭、シャワー浴を行っています。入浴剤を使用し、歌を歌ったり、お話をしながらゆっくり入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や個々のペースに合わせて声掛けし対応している。寝具も清潔を保ち、湿度、室温、明るさに配慮し、気持ちよく休めるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報にて、目的、用法、副作用を確認している。また薬の変更時には、様子観察を行い、申し送り等で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、散歩等にお誘いし、気分転換を図っています。家事や身の回りの事で出来ることはお願ひし、役割が持てるよう努力している。		

静岡県(グループホームくすのき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な希望に沿うことは難しいが、日程を調整し場合によってはご家族様の協力を得て、外出する機会を作っている。地域の催事、交流会に参加している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金はホームで管理している。買い物へ行かれた時に、ほしい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話できる方には、申し出により対応している。また取次も行っている。届いた手紙や荷物はご本人へお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝ご入居者様と一緒に掃除を行い、清潔に努めている。季節ごとに飾り付けやお花を飾る等して、季節を感じていただけるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様の座席の配慮している。フロアを移動して交流もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置はご入居者様とご家族様の希望を優先していますが、状態によりアドバイスさせていただくこともある。馴染みの物をお持ちいただき、居心地の良いお部屋になるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はすべてバリアフリーでトイレ・風呂場は分かりやすいように表示しています。通路には物を極力置かず、導線を広く確保できるように配慮している。		